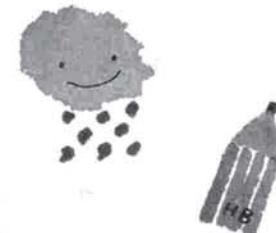


## 第2章

### 授業の進め方と児童の変化



ここ1、2年、小学校で授業が成り立たない学級崩壊が問題になっている。その背景にはさまざまな要因が考えられるが、本章では授業を媒介にした教師と児童との関係を明らかにするべく、教師がどのように授業に取り組んでいるのか、ここ数年で授業の何が変わったと感じているのか、また児童がどのように変化したと教師は受けとめているのか、という3つの側面から検討する。

# 第1節

## 授業の進め方とその変化

### 1. 授業時間の使い方・進め方

【授業時間の使い方・進め方で、特に心がけているのは「児童の発言や発表の時間」(73.0%)、「机間指導や児童に個別に対応する時間」(65.7%)、「練習や演習の時間」(50.5%)、

あまり心がけていないのが「将来、国・私立中学校や高校入試に役立ちそうな点の解説や演習」(89.7%)、「余談をする時間」(45.7%)、「問題集や副教材の使用」(39.5%)。】

Q3. あなたが指導しているクラスでの授業の進め方や授業の内容についておたずねします。  
A. あなたは、授業を進める際にどのような時間の使い方や進め方を心がけていますか。  
1) ~14) のそれについて当てはまる番号に○をつけてください。

教師がどのように授業に取り組んでいるのかということについて、授業時間の構成、授業内容、授業のしかたの3つについていくつかの項目を立ててたずねてみた。

#### ①授業時間の構成

授業時間の構成について、まず図2-1から全体の特徴をみてみよう。「特に心がけている」という割合が高かったのが、「児童の発言や発表の時間」(73.0%)、「机間指導や児童に個別に対応する時間」(65.7%)、「練習や演習の時間」(50.5%)で、一方「あまり心がけていない」という割合が高かったのが、「教師からの解説の時間」(23.8%)、「解説内容についての質疑応答の時間」(18.3%)だった。従来の教師主導で講義をしていく一斉授業のイメージは薄く、児童一人一人が主体的に勉強を進めていくのを、教師はそれぞれの児童に合わせてサポートしていくこうとする授業イメージが浮かんでくる。

次に表2-1から、もっとも力を入れている教科別と授業最多学年別（低・中・高学年の3つにまとめた）にみてみよう。なお、表は簡便にするために「特に心がけている」割合だけをまとめてある。

国語は、「復習の時間」「教師からの解説の時間」「解説内容についての質疑応答の時間」「机間指導や児童に個別に対応する時間」「練習や演習の時間」「児童の発言や発表の時間」とほとんどの項目で、4教科の中で「特に心がけている」と回答した割合がもっとも高かった。反対に「導入の時間」は4教科の中で「特に心がけている」割合がもっとも低かった。

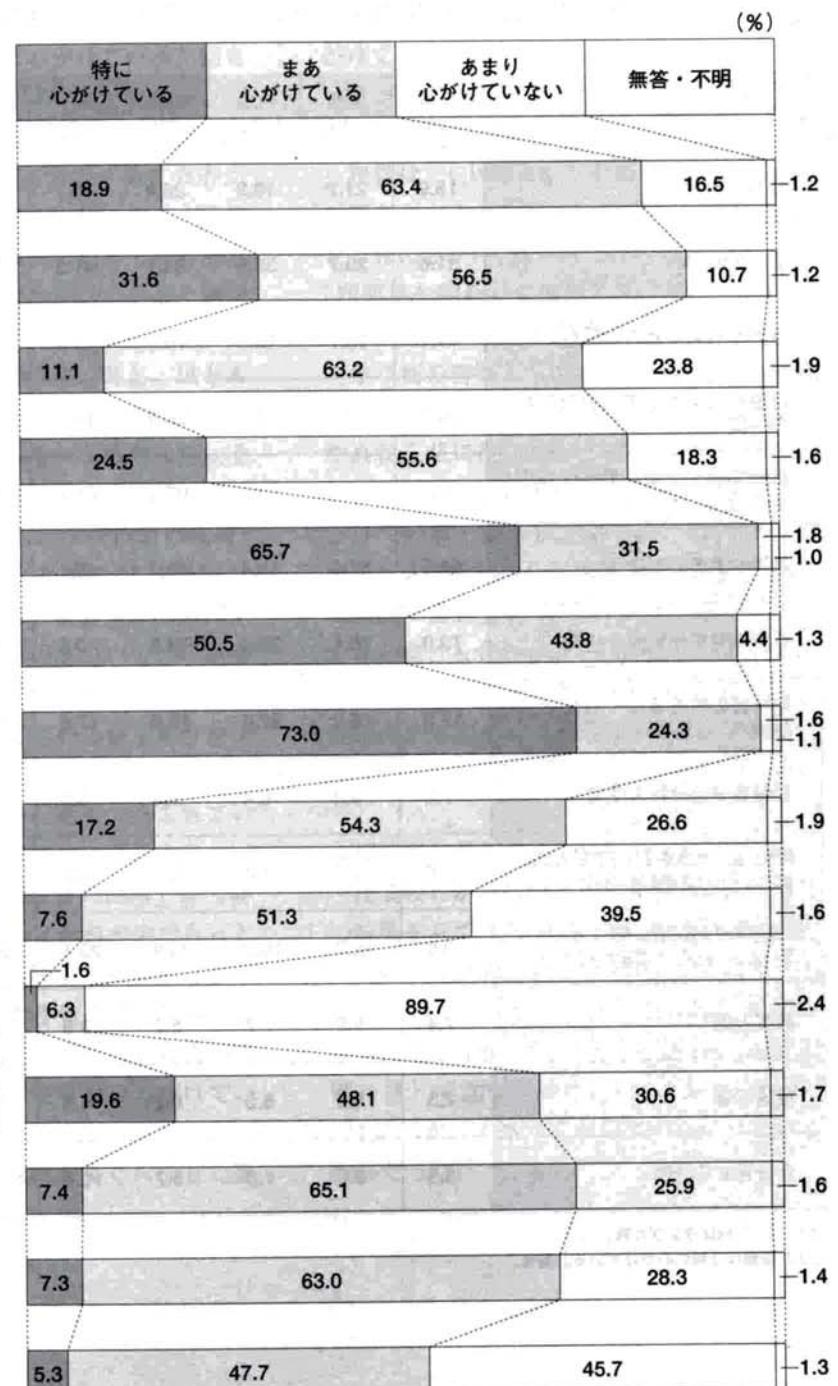
社会は、「導入の時間」を「特に心がけている」割合が理科に次いで高い一方、「机間指導や児童に個別に対応する時間」「練習や演習の時間」を「特に心がけている」割合は4教科でもっとも低かった。

算数は、全体の特徴とほとんど同じだった。

理科は、「導入の時間」を「特に心がけている」割合がもっとも高かった一方、「復習の時間」「解説内容についての質疑応答の時間」「児童の発言や発表の時間」を「特に心がけている」割合がもっとも低かった。

学年別の特徴としては、「復習の時間」「机間指導や児童に個別に対応する時間」「練習や演習の時間」で、高学年より中・低学年のほうが「特に心がけている」割合が高く、後二者は十数ポイントも「特に心がけている」割合に差があった。

図2-1 授業時間の使い方・進め方



注) サンプル数は1161人。

表2-1 授業時間の使い方・進め方（教科別・担当学年別）

	全体 (1161)	国語 (444)	社会 (143)	算数 (368)	理科 (102)	1・2年生 (316)	3・4年生 (306)	5・6年生 (341)
復習の時間	18.9	21.2	18.9	20.4	15.7	20.6	19.9	16.4
導入の時間	31.6	29.7	38.5	33.7	41.2	30.1	33.0	30.2
教師からの解説の時間	11.1	13.7	13.3	10.6	7.8	11.4	10.1	10.3
解説内容についての質疑応答の時間	24.5	28.4	22.4	26.6	16.7	21.2	27.5	23.8
机間指導や児童に個別に対応する時間	65.7	68.7	53.1	67.4	61.8	71.2	64.4	57.2
練習や演習の時間	50.5	57.9	43.4	49.2	45.1	59.2	49.3	42.2
児童の発言や発表の時間	73.0	76.1	73.4	73.6	70.6	75.3	77.8	69.8
教科書の内容をふくらませた説明	17.2	16.0	22.4	19.0	17.6	14.9	16.0	21.1
問題集や副教材の使用	7.6	9.0	8.4	7.9	6.9	9.5	6.9	5.3
将来、国・私立中学校や高校入試に役立ちそうな点の解説や演習	1.6	2.5	1.4	2.4	0.0	1.6	0.7	2.6
上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導	19.6	22.7	18.2	20.9	23.5	20.9	17.6	19.4
板書の量	7.4	9.9	7.7	8.2	8.8	8.5	7.2	6.5
宿題の量	7.3	9.2	6.3	8.2	4.9	9.5	5.2	7.3
余談をする時間	5.3	5.9	7.0	5.7	10.8	2.8	5.6	6.5

注1) ( ) 内はサンプル数。

注2) 数値は「特に心がけている」割合。

## ②授業内容

授業内容について、まず図2-1から全体の特徴をみてみよう。「教科書の内容をふくらませた説明」を「特に心がけている」割合は17.2%で「あまり心がけていない」割合は26.6%、「問題集や副教材の使用」を「特に心がけている」割合は7.6%で「あまり心がけていない」割合は39.5%だった。「将来、国・私立中学校や高校入試に役立ちそうな点の解説や演習」を「特に心がけている」割合は、わずかに1.6%しかいらず、反対に「あまり心がけていない」割合は89.7%と、ほとんどの教師が授業を進める上で上級学校の入学試験のことは意識していないようだった。その一方で、「上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導」を「特に心がけている」割合は19.6%で、「あまり心がけていない」割合も30.6%にすぎなかった。応用的な学力を急いでつけさせるよりも、長期的に役立つ基礎的な学力をしっかりとつけさせようとしている様子がうかがえる。

次に表2-1から、もっとも力を入れている教科別と授業最多学年別にみてみよう。

国語は、「問題集や副教材の使用」を「特に心がけている」割合が4教科の中でもっとも高く、「上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導」も理科に次いで高かった。反対に「教科書の内容をふくらませた説明」を「特に心がけている」割合はもっとも低かった。

社会は、「教科書の内容をふくらませた説

明」を「特に心がけている」割合が最も高く、「上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導」を「特に心がけている」割合はもっとも低かった。

算数は、全体の特徴とあまり変わらなかつた。

理科は、「上級学年や上級学校に進んでから困らないように配慮した学習内容の指導」を「特に心がけている」割合がもっとも高く、「問題集や副教材の使用」を「特に心がけている」割合がもっとも低かった。

学年別の特徴としては、「教科書の内容をふくらませた説明」「将来、国・私立中学校や高校入試に役立ちそうな点の解説や演習」が、低・中学年より高学年のほうが「特に心がけている」割合が高かった。特に「将来、国・私立中学校や高校入試に役立ちそうな点の解説や演習」については、「まあ心がけている」割合も合わせると10ポイント近い差があった。反対に、低学年ほど心がけている割合が高かったのは「問題集や副教材の使用」だった。

## ③授業のしかた

授業のしかたについて、図2-1から全体の特徴をみてみよう。「板書の量」「宿題の量」「余談をする時間」の3項目をたずねたところ、「特に心がけている」割合はいずれも数%にすぎなかった。一方、「板書の量」「宿題の量」で20%台後半、「余談をする時間」で45.7%が「あまり心がけていない」という回答だった。

## 2. 授業内容や進め方の変化の感じ方

【3人に2人が授業の進度の遅れや定着度の低下を実感。教科書が最後まで終わらないこと】

とが多くなったと感じているのは3人に1人。】

Q3. あなたが指導しているクラスでの授業の進め方や授業の内容についておたずねします。  
C. 数年前と比べて、次のように感じることはありますか。

最初に全体からみてみると、図2-2のように「授業の進度が遅れるようになった」と「授業内容の定着度が低くなった」で3人に2人が「とても感じる+やや感じる」と回答している。しかしながら「教科書が最後まで終わらないことが多くなった」には反対に3人に2人が否定的な回答をしており、次項で検討するようなさまざまな方法で年度内に指導すべきことを終えているようである。「

図2-3から中学校と比較してみると、「授業の進度が遅れるようになった」と感じる割合は、中学校よりも小学校のほうが8.4ポイント高く、「授業内容の定着度が低くなった」と肯定的に感じる割合も、中学校よりも小学校のほうがわずかに高かったが、「教科書が最後まで終わらないことが多くなった」と感じる割合は、反対に小学校よりも中学校のほうがわずかに高かった。

次に図2-4から教職経験年数別にみてみよう。「進度の遅れ」を感じている割合は、「~5年目」の44.3%がもっとも低く、「6~10年目」と「11~20年目」の教師は60%前後、「21~30年目」「31年目以上」の教師の70%以上が進度が遅れるようになったと感じている。「授業内容の定着度が低くなった」と感じている割合も似たような傾向で、「~5年目」の38.6%がもっとも低く、「6~10年目」と「11~20年目」の教師は60%強、「21~30年目」「31年目以上」の教師の80%前後が定着度が低くなっている。一方、「教科書が最後まで終わらないことが多くなった」と感じている割合は、「~5年目」が38.6%、「6~10年目」が30.1%、「11~20年目」が34.8%、「21~30年目」が38.1%、「31年目以上」が47.2%と、若手と年輩の教師が中堅の教師よりも高くそう感じている。

図2-2 授業内容や進め方の変化の感じ方

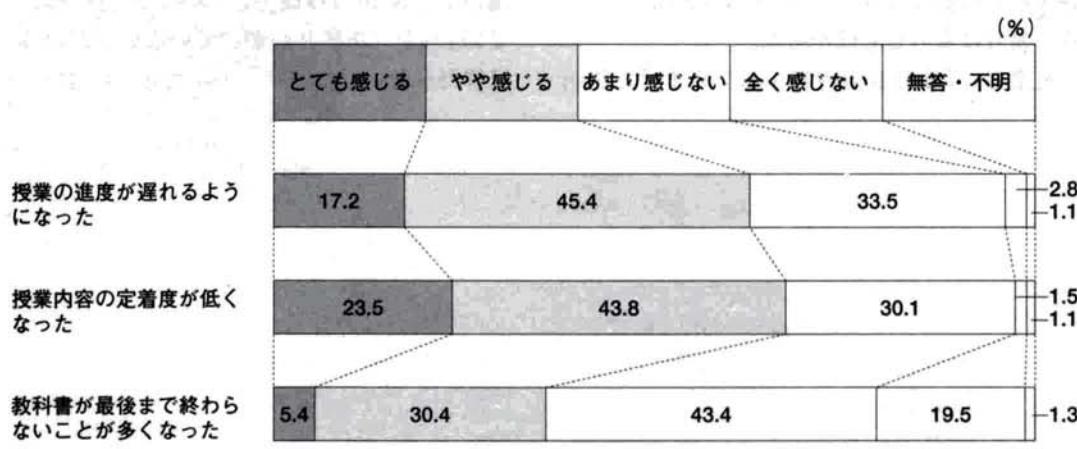
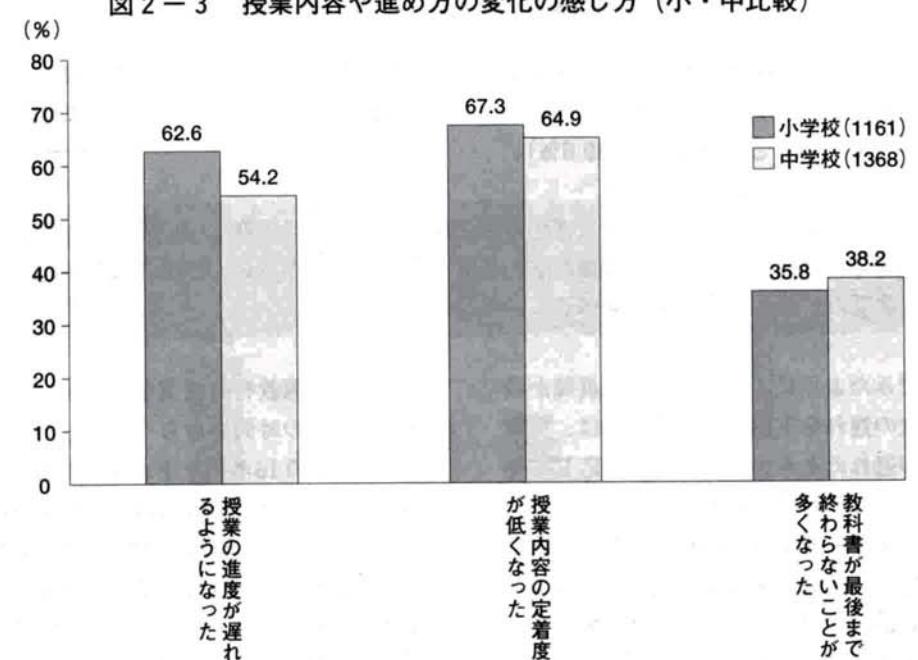


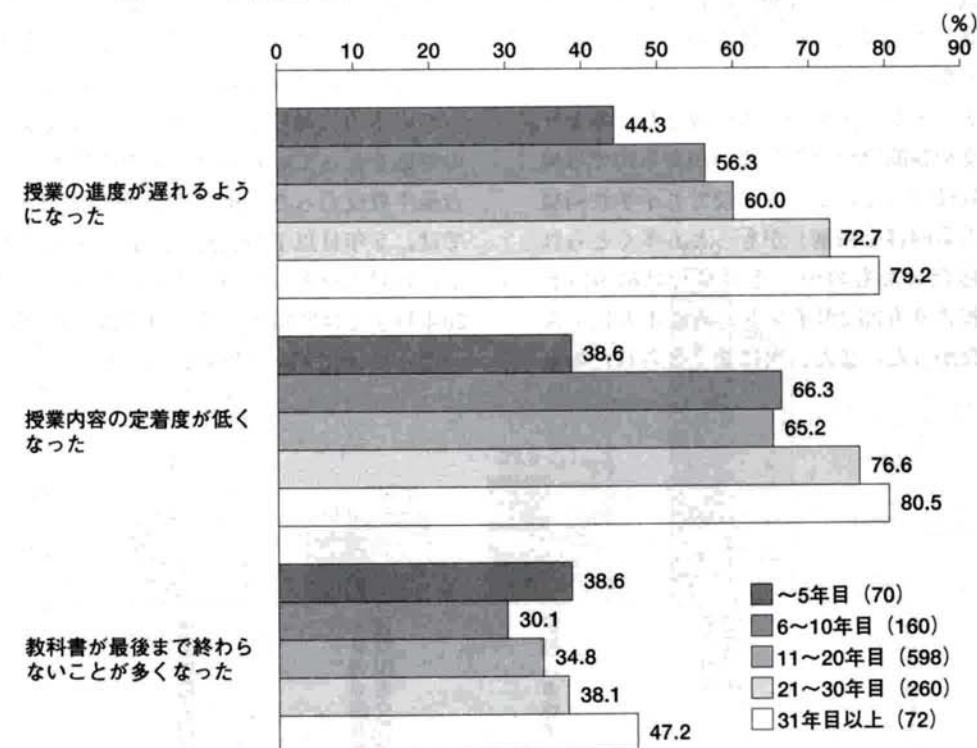
図2-3 授業内容や進め方の変化の感じ方（小・中比較）



注1) ( )内はサンプル数。

注2) 数値は「とても感じる」と「やや感じる」の合計。

図2-4 授業内容や進め方の変化の感じ方（教職経験年数別）



注1) ( )内はサンプル数。

注2) 数値は「とても感じる」と「やや感じる」の合計。

### 3. 進度が遅れたときの対応

【進度の遅れには、「授業内容を精選」(93.1%)、  
「他教科の授業をまわす」(63.0%)、「他の単元でカバーできるところを削減」(39.6%)、  
「説明や練習にかける時間を短縮」(27.3%)、  
「宿題にまわす」(23.9%)などで対応。】

Q3. あなたが指導しているクラスでの授業の進め方や授業の内容についておたずねします。  
D. あなたは、授業が予定通り進まず、進度が遅れが出たときに、どのように対応していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

前項でみたように、3人に2人の教師が授業の進度の遅れを実感している。では、実際に授業が遅れたとき、どのように対応してその遅れを取り戻しているのだろうか。

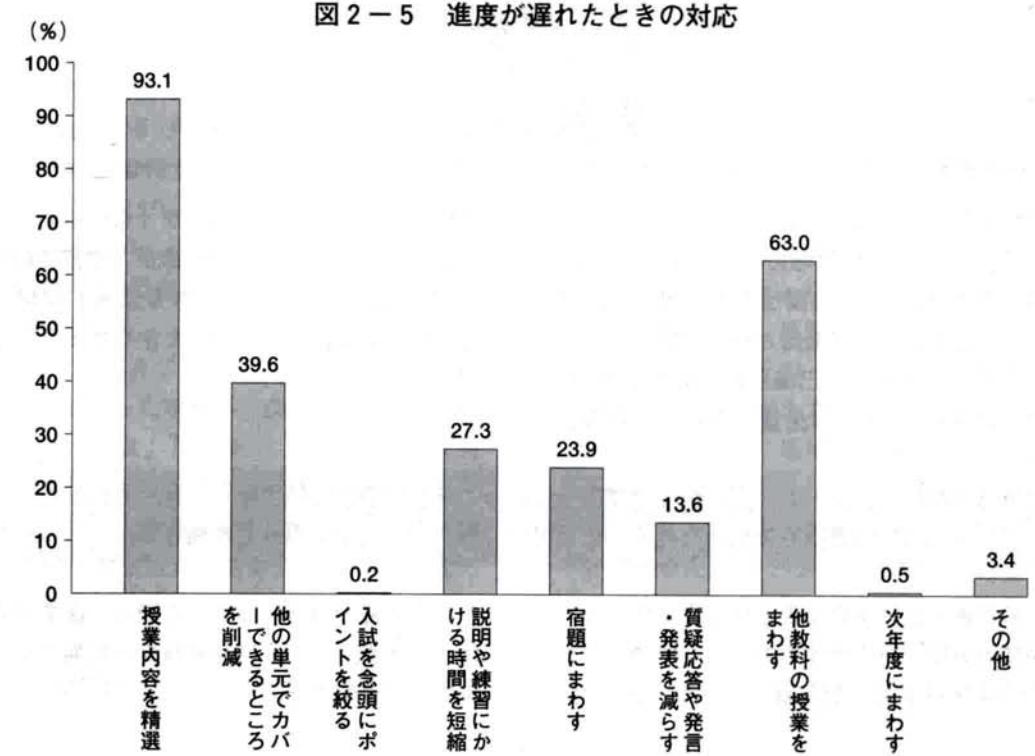
最初に図2-5で全体の特徴からみてみよう。当然といえば当然だが、もっとも多くとられる対応は「授業内容を精選」の93.1%で、ほとんどの教師が授業内容の精選によって遅れを取り戻そうとしている。次によくとられる対応が「他教科の授業をまわす」の63.0%で、以下、「他の単元でカバーできるところを削減」(39.6%)、「説明や練習にかける時間を短縮」(27.3%)、「宿題にまわす」(23.9%)などとなっている。

図2-6から中学校との比較をしてみよう。質問文や質問項目の数に違いがあるので単純な比較はできないが、中学校でも小学校同様に「授業内容を精選」がもっと多くとられた対応だったものの、その割合は67.9%と、小学校よりも25.2ポイント、実際に4人に1人も少なかった。また、次によくとられたのも

小学校の「他教科の授業をまわす」に対応する「他教科の時間をもらう」だったが、これも小学校より16ポイントあまり少ない46.6%だった。これは、小学校の多くが学級担任制なのに対して、中学校は教科担任制であるためと思われる。これら2項目とは反対に中学校のほうがより多くとっていた対応は、「宿題にまわす」(46.2%)と「次年度にまわす」(12.4%)だった。

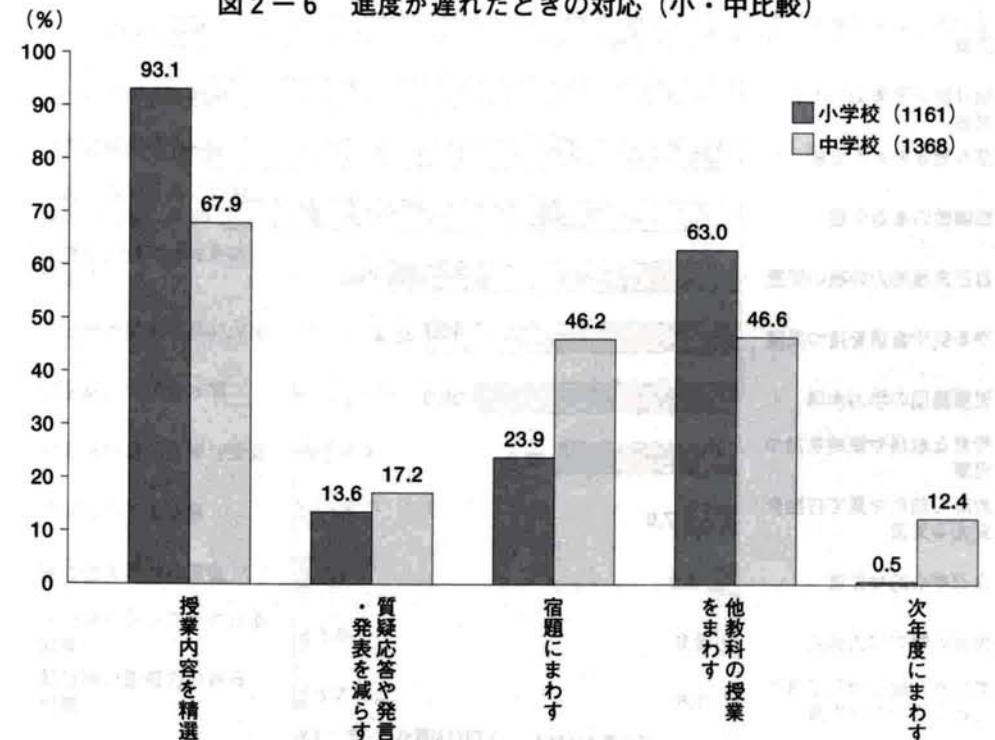
なお、図表にはまとめなかったが、教職経験年数別にみたところ、次の2点で特徴がみられた。第一に、「他の単元でカバーできるところを削減」では、21年目以上の教師は40%台後半とほぼ2人に1人がこの対応をとっているのに対して、20年目以下の教師でこの対応をとっているのは20%台後半から30%台後半程度だった。第二に、「宿題にまわす」では、5年目以下の教師の40%と5人に2人がこの対応をとっているのに対して、6年～30年目までは20%台前半、31年以上の教師にいたっては13.9%にすぎなかった。

図2-5 進度が遅れたときの対応



注) サンプル数は1161人。

図2-6 進度が遅れたときの対応（小・中比較）



注) ( )内はサンプル数。